

Tropee d'Or Feminin (UCI2.2)

Gp de plouay Bretagne レースレポート (ナショナルチームヨーロッパ遠征)

パナソニックレディース 坂口聖香

8/21-24 Tropee d'Or Feminin (UCI2.2)

第1ステージ TT 15位

第2ステージ 39位

第3ステージ 33位

第4ステージ 39位

第5ステージ ゴール 200m 手前で落車



4日間で5ステージのステージレース。

1日目だけタイムトライアルとロードレースという、第1・第2ステージを同日に行うタイトなスケジュールでした。日本チームのオーダーはステージごとにありましたが初日はとくにありませんでした。第3ステージは上りが厳しいコースで厳しい日になるとわかりきっていたので具体的な戦略はとくになく、上り口の前でみんな前で固まることなどを。第3

ステージ以外はほぼ平坦基調なコースだったので、スプリントエースを運ぶことでした。ほぼ経験のない日本チームなのでこう走ろうというのはほぼ出来ず失敗の方が多く、総合に絡むなどは難しい話でした。108人の選手がいて、道幅も狭く集団内のブレーキのかけ具合の差、加減速などで落車も多く、集団の中での位置取りなど、日本にいと普段かからないストレスから、気づくと考える



クセがつくほど自分自身でいろいろ考えながらレースをしていました。ステージレースはステージごとに各チームの思惑で展開していきますが、しっかり組織化されているヨーロッパチームでレース経験も豊富な選手と違って私は考える幅もまだ狭いためステージごとに余裕もなく、なんとなく気後れしている状態だった気がします。

8/27 ワールドカップ Gp de plouay Bretagne リタイア

4日間のステージレースを終え、なか2日。世界のトップクラスの選手がたくさん集まるワールドカップレース。会場の雰囲気も世界選手権と変わらないくらい観客も多く、出店もたくさんあってお祭り状態。こんなレースに出られるなんて思いもしませんでした。先日に終えたステージレースとはまた違った雰囲気で、もっとレースの雰囲気が妖しくリアルな気がしました。勝ちを狙いに来ている各チームに、レースしてからも多くのチームがチームとして動いている感じが走っていてもわかりました。集団の後ろから前にジャンプアップするために、2人ほどの選手が端からエース的存在な選手を引き上げたりするシーンなどもあり、これこそが日本と違うなと感じましたが、チームとしてまとまって行動しているんだなと思いました。決定的な逃げが決まるまでは集団はおとなしいスピードで進みましたが、位置取りもうまくできない私は集団の真ん中や後ろの方において集団が伸びて一列棒状になったりとスピードの加減速がかかったり、集団内においても厳しい状態でした。序盤は気もしっかりしていて、集団のいいところで走っていたのですがどんどん走り続けるには厳しくなっていました。最終的には、Tropee d'or Femininのラストステージで落車し頭とアゴを強く打ったダメージからワールドカップは途中で自分からリタイアしてしまいました。



短い期間でしたが、私が感じたことは、たくさんありました。このフランス遠征でレースを経験して考え直すきっかけになりました。国内で走るには限られたレースしかないのですが、それにしてもヨーロッパのレースに比べると毎回、3分の1かそれ以下の短いレース距離。コースも広々と安全で、人数も少なく個々、点と点の争いなので生き残らなければならない緊迫した状況に迫られるわけでもなく消化するような感じです。1週間ちょっとという短い期間でしたが、本場のレースを経験していろいろ考えさせられました。ロードレースがしっかりと文化として成り立っているヨーロッパではチーム移籍等あり、レースごとに評価がはっきりと繁栄されるのでプロ・コンチネンタルなど、いろんな立場でレースに参加している選手は結果を出すことに貪欲なんだと感じました。レースのコースははっきり安全とは言えないし、ライダーの数も100人ほどからそれ以上の多いメンバーで、前に前にと攻める選手もいるので落車も頻繁に発生しました。距離もしっかり設定されていて山岳・スプリントポイントも各場所に設定され、狙いに來る選手によって展開は活発化し、レースもエースアシストがいていろいろなパターンに対応できる戦力があって、チームが成り立っていました。日本にはないレース（UCIレースなど）が各地で行われて、ナ

シヨナルチームとしての遠征で、指で数えられるほどの数しか走っていない自分は、ある意味まったくロードレースということを本当の意味ではあまり知らなかったんだと深く思い知らされました。今までは漠然と走れてただけで、一種の culture shock のようです。勝負をしに行く世界との差は自分のレベルももちろんですが、国的レベルでも大きく差があるなと感じました。女性は特に、日本にいると個人競技よりロードレースなどレースはありますが、世界的規模で比べると文化としてはまだまだ成り立っていないんだなって感じました。

すべてがまったく違っていて、輝いていて、ここに集う選手たち、こんな環境を心から羨ましく思えました。



現地のファンの方がつくってくれたポストカードです。スペルは違っていますがうれしいですね。